

# 斎藤実盛館跡(熊谷市)

築城年代:平安時代末、築城者:斎藤実遠

正面に斎藤実盛館跡の中心とされる大我井神社入口の石柱が立つ



そこを進むとすぐに大我井神社がある



この地は大我井の杜と呼ばれるらしい



武州妻沼郷大我井神社

大我井神社は遠く人皇第十二代景行天皇の御代日本武尊東征の折り、当地に軍糧豊作祈願に二柱の大女神、伊邪那岐命、伊邪那美命を祀った由緒深い社です。

古くは聖天宮と合祀され、地域の人々から深い信仰を受けてきた明治維新の神仏分離令により、明治二年、古歌「紅葉ちる大我井の杜の夕たすき又目にかかる山のはもなし」(藤原光俊の歌・神社入口の碑)にも詠まれた現在の地「大我井の杜」に社殿を造営御遷座しました。その後、明治四十年勅令により、村社の指定を受け妻沼村の総鎮守となり、大我井の杜と共に、地域の人々に護持され親しまれています。

なかでも撰社となる富士浅間神社の「火祭り」は県内でも数少ない祭りで大我井神社の祭典とともに人々の家内安全や五穀豊穰を願う伝統行事として今日まで受け継がれています。

大我井神社祭典

一月 八日	歳旦祭	八月二十七日	火祭り
二月二十八日	祈年祭	十一月二十八日	新嘗祭
四月 十七日	例祭	十二月二十九日	大祓祭

大我井神社社殿造営

明治二年己巳八月吉祥日

請負 当所上宿住

大工棟梁 林 門左衛門	正道(現聖天様貴惣門造営)
大工息子 林 門作	正啓(現聖天様仁王門造営)
御本社 神明造	正面二間半 妻九尺
拝殿 入母屋造	正面二丈四尺 妻一丈五尺

その後何度かの修理を行い、現在の社殿は平成十一年の「平成の大修理」によるものです。(関係碑文・拝殿右)

熊谷市観光協会

これが藤原光俊の歌碑



正面が社殿





唐門/明治7年に若宮八幡社の正門として建立されたものを移築したもの



大我井神社唐門の由来が記されている







拝殿



その左手にある塚状の高まり





こんな感じ





左手は本殿







社殿を背後から見たところ/この境内が斎藤実盛館跡の中心地らしい



振り返ると妻沼小学校の校庭が見えるが、ここも斎藤実盛館跡のエリアとされる



元々は大我井神社の境内の一部であったという



さて、最初の大我井神社入口の石柱の反対側には妻沼聖天山があり、その境内も斎藤実盛館跡のエリアであったとされる



これは妻沼聖天山の貴惣門/重要文化財



貴惣門から境内を進むと武士の銅像が見えてくる



これが妻沼聖天山の境内にある斎藤別當実盛の銅像





昔の文部省小学唱歌でも歌われている



齋藤實盛

文部省小学唱歌

年は老ゆとも、しかすがに  
弓矢の名をばくたさじと、  
白き鬘にそめ、  
若殿原と競ひつつ、  
武勇の譽を末代まで  
残しし君の英雄しさよ。  
錦がざりて歸ちどの  
昔の例ひき出でて、  
望の如く乞ひ得つる  
赤地錦の直垂を、  
故郷のいくさに輝かしし  
君が心のやさしさよ。

さて、上記の大我井神社周辺から南に少し離れたところに斎藤氏館跡実盛塚があるという



この先に斎藤氏館跡実盛塚がある



正面は福川の土手





説明板と板碑がある



# 熊谷市 指定文化財

一、種 別 史跡

一、名 称 斎藤氏館跡実盛塚

一、指定年月日 昭和五十一年九月十三日

福川の河川改修等により形状が変わっているが古代長井庄の中心的な位置にあたり水堀の跡や出土品のほか、古くから「この辺、堀内」という所は長井庄の首邑にて実盛の邸跡なり」との伝承や、長昌寺の椎樹にまつわる口碑その他の史実などからして大正十五年三月埼玉県指定史蹟「斎藤実盛館跡実盛塚」として指定されたが、何時の日か誤って「史蹟実盛碑」となったため昭和二十八年に県指定史蹟を解除された。中央に残る板碑は、実盛の孫である長井馬入道実家が死去しその子某が建てた供養塔である。



板碑は実盛の孫の長井馬入道実家の供養塔/右手の石柱には「長井庄斎藤別當實盛館阼」とある



いたび いたしとうば めいぶん  
板碑(板石塔婆)銘文

光明遍照 右志者為慈父

十方世界

孝子

(欠)

正嘉元年 巳 十二月 晦 日

念佛衆生

(一五七年)

敬白

撰取不捨 幽儀成佛也

●背面に「正嘉元年 丁 十一月 十一日」と

「長井馬入道 殿 直 年七十也」の追刻あり。

これが福川



福川の土手上から見下ろしたところ



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/361sanemori/sanemori.html>

<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/hist/s5/sane.htm>

<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/jousetu/bunkazai/270bunka.htm>

[http://castle.slowstandard.com/08kanto/11saitama/post\\_914.html](http://castle.slowstandard.com/08kanto/11saitama/post_914.html)

<http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.kounann.html>

<http://atenzasports23z.blog.so-net.ne.jp/2009-10-24-1>

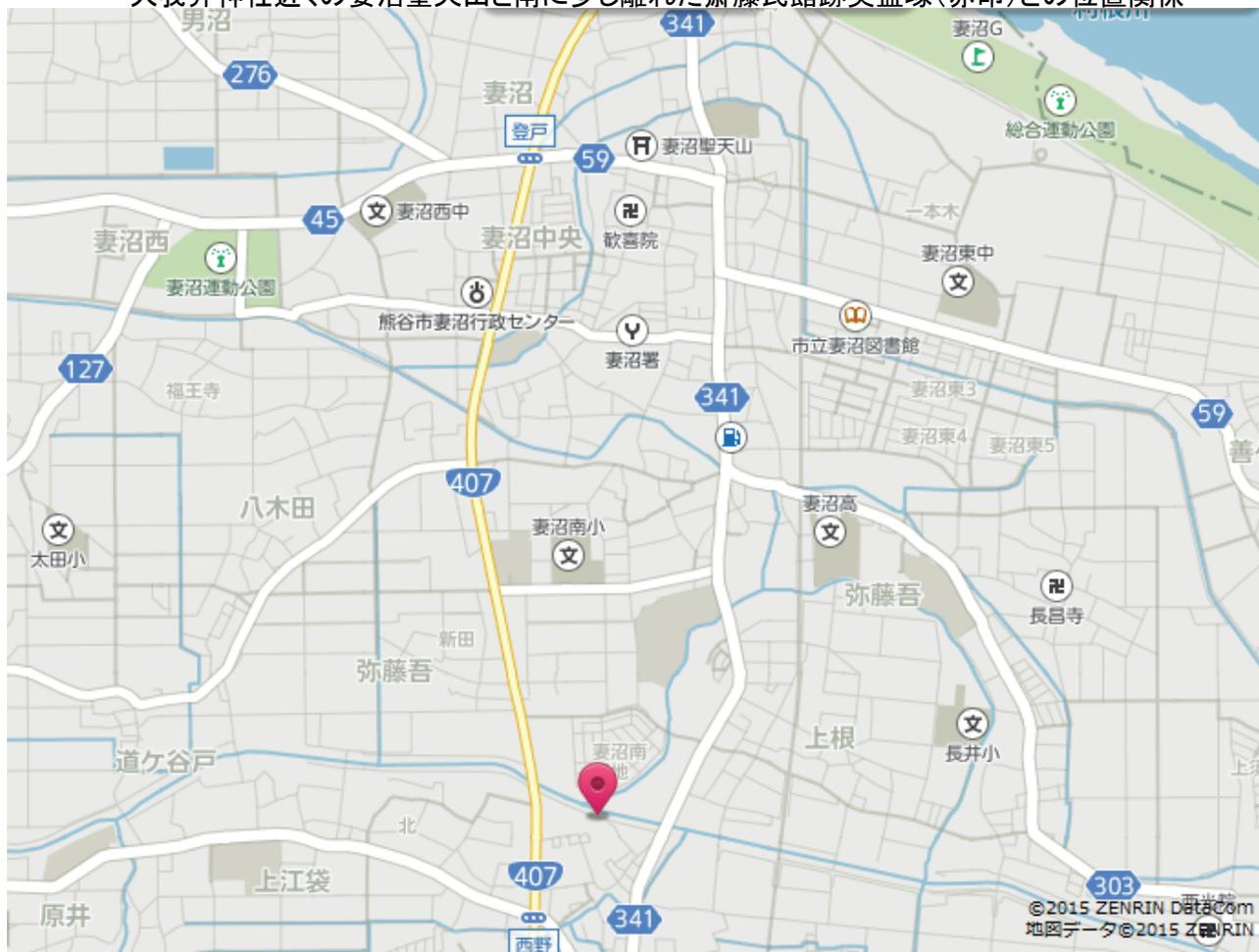
[http://www.ac.auone-net.jp/~kojyou/sanemori\\_yakata.html](http://www.ac.auone-net.jp/~kojyou/sanemori_yakata.html)

[http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic\\_rosier/61875305.html](http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/61875305.html)

[http://blog.goo.ne.jp/dark-eyes\\_2007/e/c8f63d912117d7abc6e33ea7c20263cf](http://blog.goo.ne.jp/dark-eyes_2007/e/c8f63d912117d7abc6e33ea7c20263cf)

<http://animshionchiaki.cocolog-nifty.com/blog/2011/06/post-df1b.html>

大我井神社近くの妻沼聖天山と南に少し離れた齋藤氏館跡実盛塚(赤印)との位置関係



斎藤実盛館跡とされる大我井神社、妻沼小学校、妻沼聖天山の位置関係



参 考



# めぬま歴史の道

## 斎藤別当実盛公遺跡探訪遊歩道案内

表示	名称
①	貴惣門 国指定 1851年完成
②	実盛公像 付殿の塔 8年開闢記念
③	四脚門 市指定 別称、基五郎門
※	平和の塔 歴史探訪トイレ
④	聖天山本殿 国指定 1179年開創
⑤	板石塔婆 県指定 通称ひら仏
⑥	歓喜院本坊 1197年建立
⑦	氷川神社 斎藤氏の鎮守
⑧	斎藤塚 実盛五・六段りの地
⑨	実盛塚 市指定 斎藤氏願鐘
⑩	長井神社 別名井廻様
⑪	椎の木 市指定 実盛公手植えという
⑫	両宜塾跡 市指定 寺門跡軒私塾
⑬	大我井の杜 光徳歌碑あり 経路出土
⋮	めぬま歴史の道遊歩道



⑬大我井の杜と⑧斎藤塚と⑨実盛塚の位置関係拡大図





国道407号

県道太田熊谷線

ひかわ荘  
妻沼南小

妻沼高校

弥藤吾

備前堀

道閑堀  
浄水場

ハツロ

観清寺

長昌寺

リード

旧福川

緑道

井田郎跡

妻沼リバーサイド

上根

長井小

武道館

江波

伏牛

福川

西野

40

# 実盛公遺跡 探訪遊歩道



斎藤別当実盛公銅像

## 探訪遊歩道の概要

昭和53年4月に、「実盛公遺跡探訪遊歩道」が創設され、平成8年度の補助を得てめま歴史の道遊歩道や観光トイレなどが整備された。探訪遊歩道は聖天山を起点に弥藤吾、西野、ハツ口を経て妻沼に戻り約8キロのコースを歩きながら祖公ゆかりの地を探訪しようとするもので、所要時間は約3時間としている。

主な探訪箇所は次の通りである。

### 1 貴惣門（平14・5国指定）

妻沼の工匠林兵庫正清が寛保3年（1743）設計したが建立するに至らず弘化4年（1847）4月林門左衛門正道の手で起工、嘉永4年（1851）11月に竣工した。日本3貴惣門の一つ。

### 2 実盛公像と歌の塔（平8・3建立）

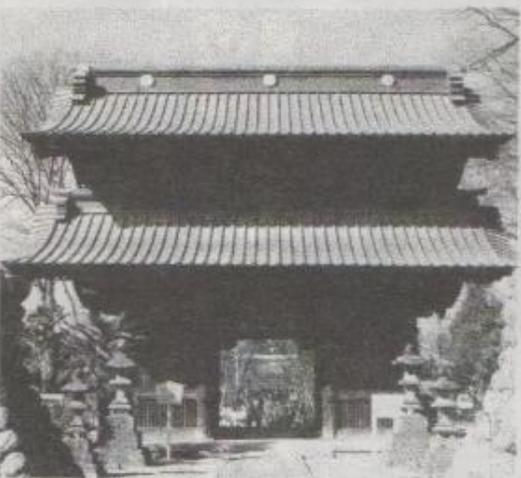
実盛公は寿永2年（1183）白髪を染めて出陣し、篠原で討死をする。妻沼エブロンスイングによる小学唱歌「斎藤実盛」のメロディが流れる。

### 3 四脚門（昭37・8指定）

中門ともいい、室町時代の特徴を残す。甚五郎門ともいう。

※「残雪の家」千代樹

文豪田山花袋の小説「残雪」の舞台となったが部屋は昭和36年に焼失。



貴惣門

### 4 聖天山本殿（昭59・12国重文）

源平合戦で名を馳せた斎藤別当実盛公が、治承3年（1179）古社を修造し守本尊の大型歓喜天を祀って聖天宮と称し長井庄の総鎮守としたのに始まり、幾多の変遷を経て宝暦10年（1760）林兵庫正清により現在のお堂が完成した。桃山時代の建築美を伝える江戸中期の貴重な建造物。文化財名、歓喜院聖天堂。平成22年に平成の大修理が終了した。

○錫杖頭(昭25・8国重文)

実盛公の外甥宮道国平が公の孫実家等と建久8年(1197)4月聖天堂の本尊として奉鑄寄進したもので、環内中央に歡喜天を配置し柄に紀年、建立氏名などが刻まれている。高さ51センチ、秘仏である。

○紵絲斗帳(昭34・3県指定)

中国明時代の織物(日本の繻子)で縦147センチ、横170センチ、上部に福建、下部に機戸などの銘文がある。荻生徂徠の「度量衡考」に嘉靖(1522-166)の古物也とある。県立博物館寄託。

○鰐口(昭36・3県指定)

直径31センチ、銘帯に「武州福河庄聖天堂常住也沙弥來阿」外帯に「暦応2年(1339)の陰刻あり、福河庄の存在を示す。県立博物館寄託。



聖天山本殿の彫刻



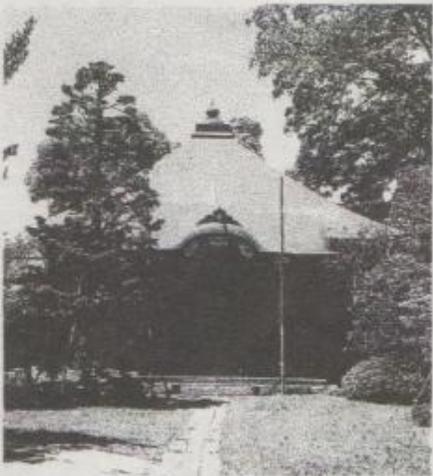
平和の塔(昭和33年建立)

5 板石塔婆(昭40・3県指定)

善光寺式三尊像板碑で、通称ひら仏という。もと妻沼小学校の敷地内にあった。

6 歡喜院本坊

阿請坊良応(実盛の息齋藤六実長)が建久8年(1197)に聖天宮別当坊として建立、本尊の十一面観音は宮道国平らの寄進。国指定重文錫杖頭を蔵す。山門前に俳人松本旭の句碑がある。



歡喜院本坊

○妻沼八景詩画幅(昭37・8 指定)

江戸の儒者寺門静軒が妻沼で両宜塾を開いた当時、中国の瀟湘八景にならって豊洲にかかせたもの。

○勝海舟の書(昭52・9 指定)

歡喜院・稲村英隆氏(元院主)と親交の深い山岡鉄舟が師の要請で海舟に揮毫してもらった横書で「鎮国利人乙酉仲春海舟」とある。

7 氷川神社(弥藤台)

実盛の後裔が建立したと伝えられる。

8 斎藤塚(弥藤台)

実盛公の息子などが父の遺物を埋めた所とか、孫弥藤吾実幹あるいは外甥国平居住の跡と言い塚上に板碑がある。長井斎藤氏の後裔の墳墓。



斎藤塚

※井田氏邸跡

メヌマポマード本舗を興し、財団法人「井田育英会」を創設する。現在、邸宅は商工会館隣に移築され井田記念館となっている。

9 実盛塚(昭52・9 指定)

西野にある。福川に沿って開かれた長井庄の中心的位置、交通の便、水堀の跡また古くから「この辺堀内という所は長井庄の首邑で実盛の邸跡なり」との伝承や、八ツ口長昌寺の椎の木に関わる口碑その他から大正15年3月埼玉県指定史蹟「斎藤実盛館跡実盛塚」と指定されたが昭和38年に県指定を解除。塚上の板碑は、実盛の孫長井馬入道実家の供養塔か。



実盛塚

10 長井神社(西野)

かつて湧水があり、井殿様と呼ばれる。

11 椎の木(昭34・4 指定)

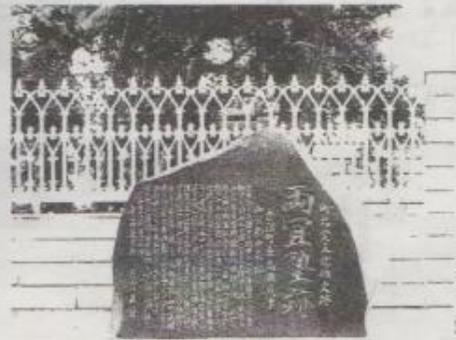
実盛が西野に館を構えた際、八ツ口長昌寺境内の薬師堂を鬼門よけ祈願所とし、その印に庭に3本の椎の木を植えたうちの1本という。樹齢800余年、樹高約9メートルの天然記念物。同寺にも歡喜天像を蔵す。

12 両宜塾跡(平5・11 指定)

その著書「江戸繁昌記」が幕府の憲にふれ、江戸追放になった寺門静軒が、英雅院主らの請いにより万延元年(1860)3月に開講した塾舎が茂木高之氏居室となっていたが老朽により平成5年2月解体し跡に碑が建つ。

13 大我井神社

明治2年神仏分離令で聖天宮から分かれたもので、イザナギ、イザナミ命をまつ。境内に相馬御風書藤原光俊卿の歌碑や福石がある。なお、昭和32年妻沼小学校校庭から経塚四基が発掘されている。



両宜塾跡

×利根川先陣跡

太平記絵巻に登場する実盛後裔実永・実季が建武4年(1337)に戦死した戦いの先陣跡。

聖天様は松がきらい

○妻沼地方は、昔から松を植えることを忌みきらう。正月の門松にも、檜を使った。聖天様が松の葉で目を突かれたからだとか。その時、突いた目を雉子にためてもらったら忽ち治癒した。以来雉子は聖天様の眷族となった。

○聖天様が松葉いぶしにあってここに移られたため、松をきらうようになったともいう。

○聖天宮旧記に「まつはういもの辛いもの」聖天様への願いごとは忽ちかなえられる。待つことがない。だから松はきらいという。

平成24年2月改訂  
熊谷市教育委員会



椎の木